

くサイトへ戻る

管理お気ですか？

15年後の「のほほん生活」

頑張ったのかな？でも無理はしてこなかったと思います・・・

2020年12月19日・ヘラ釣り

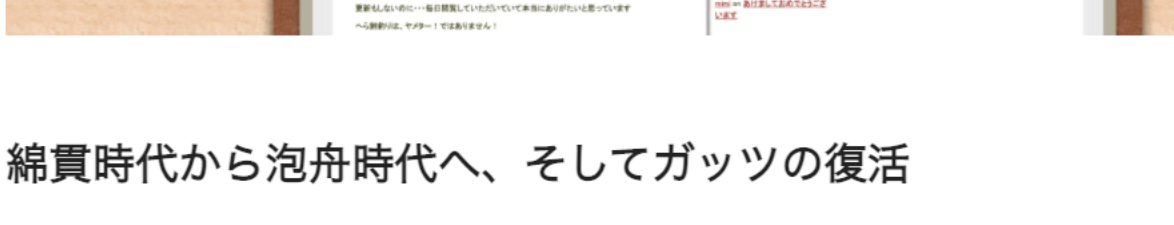
満15年の「ナリーズ」

ナリーズは、ヘラ釣り月刊誌の僕の連載の中で突然できあがったクラブです。その紆余曲折に関しては、あちこちで書いているので詳細は省きます。それこそ、連載の最後の方にはクラブに対する思い（情熱というよりお詫び）も書きました。トップページの過去ログを漁っていただければ読めます。

まあ簡単に言えば、運営にそんなに熱心でなかった会長（僕）が、ある時目が覚めて真剣に活動し始めた、というストーリーでした。今日まで、で、ウェブサイトの更新を終えて眺めてみると、折り返してから（目が覚めてから）の方が長いんですね。番付制作を再開してからの方が長い。だから全て水に流してくれて言うつもりもないですが、あの時代（ナリーズも仕事も）は一昔前になったんだなあ、という感慨はあります（って昨年もどこかに書いてたりして）。

初期メンバーはほとんど残っていません。3人くらいかな？それって見方によっては、出入りの激しいダゲダゲなクラブだし、逆にメンバーが入れかわっても存続できる代謝のあるクラブでもあります。それはもう、外部の方の感じ方次第です。実際のところは、現在のメンバー個々に感想を聞くしかありません。

卒業していった初期メンバーに対しては感謝しかありません。TwitterやFacebook、InstagramなどのSNSが普及する以前、ブログ全盛の時代（一部コアなネットユーザーはmixiも）に、ヘラ界隈ではそこそこ有名なブロガーが多かった初期メンバーには、大いに盛り上げていただきました。



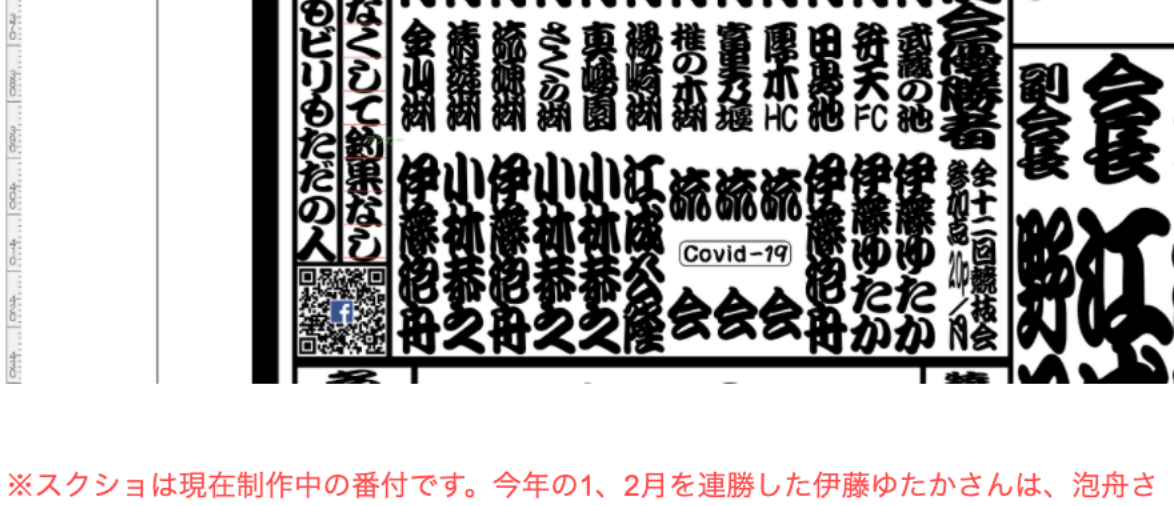
綿貫時代から泡舟時代へ、そしてガッツの復活

年表の前半、会長不在がちのクラブを牽引したのは、マルキューインストラクターの綿貫さん。面倒見が良く皆に慕われ、圧倒的な実力で堂々の年間5連覇。これはもう偉業としか言いようがないです。

その後、当時の幹事長の繋がりから入会してきた伊藤泡舟さんは、現役バリバリのトーナメンターとして破竹の勢いで連勝していきます。泡舟さんの数年後に、「以前の」スーパースターであるガッツ小林さんが入会し、年間4連覇は阻まれますが、見事3連覇を達成、横綱になることができました。現在は2連覇中で、来年は二度目の3連覇に挑戦することになります。

歴代年間チャンピオン	月例会優勝回数	2020年度 ナリーズ年間順位
2008 須崎紀男	伊藤 泡舟 28	1 伊藤 泡舟 1200
2009 岡田光浩	綿貫 正義 21	2 須崎 紀男 1040
2010 綿貫正義	天笠 正美 17	3 岡田 光浩 930
2011 綿貫正義	小林 恭之 10	4 山崎 浩之 850
2012 綿貫正義	江成 公隆 14	5 綿貫 正義 750
2013 綿貫正義	遠藤 復雄 7	6 伊藤 泡舟 650
2014 綿貫正義	平山 敏郎 4	7 須崎 紀男 550
2015 伊藤泡舟	須崎 紀男 4	8 伊藤 泡舟 450
2016 伊藤泡舟	岡田 光浩 4	9 山崎 浩之 350
2017 伊藤泡舟	新谷 高志 4	10 伊藤 泡舟 250
2018 小林恭之	野口 靖 3	11 須崎 紀男 150
2019 伊藤泡舟	箱田 茂 3	12 伊藤 泡舟 50
2020 伊藤泡舟	上田 靖彦 3	13 伊藤 泡舟 0
	伊藤 悠たか 3	14 伊藤 泡舟 0
	木村 浩重 2	15 伊藤 泡舟 0
	倉山 君枝 1	16 伊藤 泡舟 0
	上野 昌貴 1	17 伊藤 泡舟 0
	山上 健太 1	18 伊藤 泡舟 0
	伊藤 幸子 1	19 伊藤 泡舟 0
	西川 隆一 1	20 伊藤 泡舟 0

番付を見れば一目瞭然ですが、月例会優勝者欄に並ぶ名前は泡舟さんと小林さんばかり。いまや完全に二強時代になっています。ナリーズはもともとそんなに競技志向のクラブでもないので、例会は和気あいあいというか馬鹿話のオンパレードなんですが、いま、パッとゲスト参加されて、この二人を上回ることは至難の業でしょう。僕なんかは逆に、1勝でもできれば儲けものと思ってやっています。

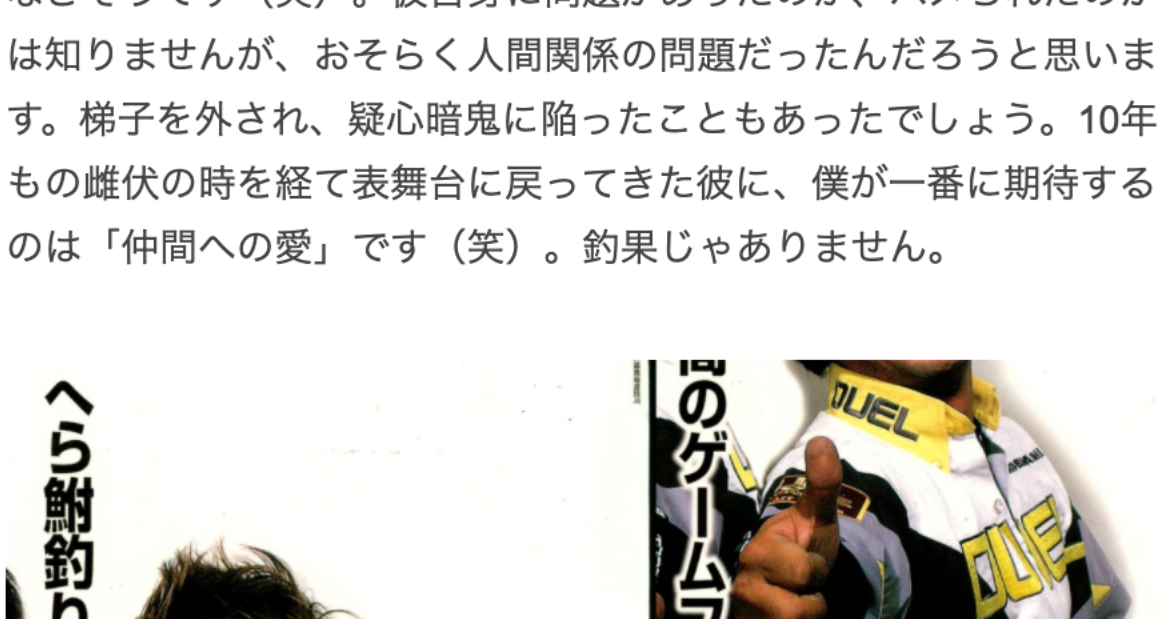


※スクショは現在制作中の番付です。今年の1、2月を連勝した伊藤悠たかさんは、泡舟さんの従兄弟です

とはいえ、「一位もどりもただの人」です。たとえ釣果に差がついても、人としての価値は対等です。「有名だから」「釣り名人だから」という村度はありません。釣るスターも釣れないパンピーも、互いにイジり合えるムードがナリーズにはあります。「ちょっとちょっと！この人、他所へ行ったらスターだぞ？」と、ハラハラするくらい。過度なプライドは困りますが、スターにはそれなりにあって良いと思うんで、少しは尊重してやれよwみたいな。でももしかすると「良く釣るチーム」にとっては、「特別扱いはされない面白さ」もあるのかもしれないですね。皆がそれぞれ様々な人生を抱えて生きています。全員がそれぞれの人生における主役なのです。

某管理池オーナーの息子さんとして生を受け、神童な幼少期を送ったにもかかわらず、青年期はヘラ釣りから離れた泡舟さん。「ぼっと出のくせにフィッシングネームなんて何様？」「イマドキ流行らねーよ！」などと感じた方もいらっしゃるかもしれませんが、亡くなったお父さんの号を襲名しているんですよ。そういうバックグラウンドが、泡舟さんにはあります。いわば、「遅れてきたサラブレッド」です。彼のことをよく知らずに、「ぼっと出」と叩いていた方は、これを知ったら無条件にリスペクトするんでしょうかね？年功序列的には、大抵の人は頭が上ならないキャリアですもんね。なので、知らない人のことをとやかく言うような、くだらないことはやめましょう。

月刊誌の表紙を飾ることもあった小林さんも、突然表舞台から姿を消したという闇を持っています。「失われた10年」の間に、何があったか僕は知りません。ただ、現在は元気にトーナメントにも参加出来るようになったことを思えば、手が後ろに回るような理由ではなさそうです（笑）。彼自身に問題があったのか、ハメられたのかは知りませんが、おそらく人間関係の問題だったんだろうと思います。梯子を外され、疑心暗鬼に陥ったこともあったでしょう。10年もの雌伏の時を経て表舞台に戻ってきた彼に、僕が一番に期待するのは「仲間への愛」です（笑）。釣果じゃありません。

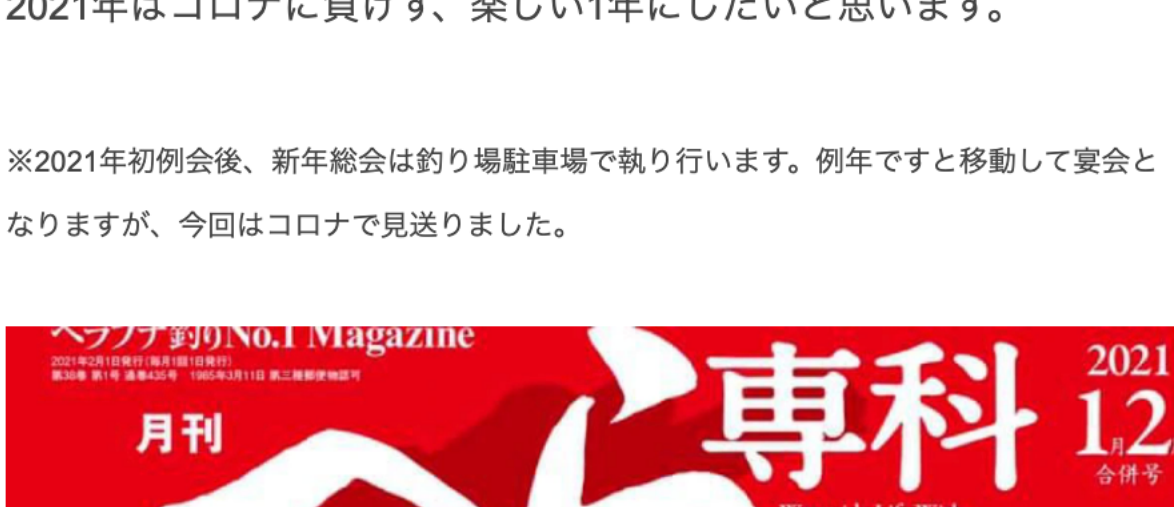


そして一周

月刊誌の連載がキッカケとなって発足したクラブは、連載終了と同時にルーツを失うことになります。熱心に運営していれば、問題なく乗り越えることが出来る危機だと思いますが、そうじゃなかった会長のクラブが今も残っているのは奇跡としか言いようがないです。いえ、僕を除いた熱い初期メンバーの功績ですね。繰り返しますが、本当に感謝です。

あれから12年。今度は、先にクラブが存在し、メンバーとは無関係なところで連載が始まります。発足当時とは別の出版社になりますが、いずれ連載が終わっても、プレッシャーはゼロ。健全です。2021年はコロナに負けず、楽しい1年にしたいと思います。

※2021年初例会後、新年総会は釣り場駐車場で執り行います。例年ですと移動して宴会となりますが、今回はコロナで見送りました。



※さて、僕の連載はどちらでしょう？（12/26発売です！）